

ひろば大代

NO.379

大代まちづくり
センター

H23. 2.23

うさぎ年

生まれ特集

初年女

小学校五年 小笠原優里



私は今年年女です。今年は年女がうれしくて、うれしくて、年賀状を出す人全員に「年女」という字を書いたほどです。

四月からは六年生、最高学年としてやらないといけないことが増えて来ます。だから全校のみんなをしつかり引っぱっていききたいと思います。

また十二年後、二回目の年女の時は二十四才、まだ大代にいるかもしれないし、一人ぐらしをしているかもしれない。今から見ると二十四才は、まだ先のように思うけど早いだろうなと思います。もしかしたら結婚をしてい

るかもしれないし、子どもを産んでい
るかもしれないし、新しい家に入っ
ているかもしれないので、早く十二年後
にならないかなと楽しみにしています。

卯年生まれ

子育て中です！

植松 小笠原優子



大代に嫁いで二度目の年女を迎えま
した。その間に三人の子どもに恵まれ、
この春には長女が六年生、次女が三年
生、長男は幼稚園の最年少クラスから
一つ上に進級いたします。

時間があれば本（マンガもあり）を
読んでいる読書好きの長女とは同じ干
支で、今年を節目の年として興味を示
しています。次女は逆に体を動かして
いないと落ち着かない行動派で、黙っ
ている時は眠い時、分かりやすい愛さ
れキャラです。長男は明るいひょうき
んな性格ですが、今は二歳児反抗期？
なかなか言う事を聞いてくれません。
育児と家事、お寺の諸々な行事に追

われつつ、この地であつという間に十
三年の月日が経過しました。
若いつもりでいたのが、気づけば中
年になり、「若い」では済まされない
事が増えてきました。

これからも、子どもの成長を楽しみ
にしつつ、自分の役割を果たす努力を
怠らず、日々過ごして行きたいと思っ
ています。今後ともどうぞ宜しくお願
い致します。

人生、

いつだってこれから

山田 畑 誠



年初めから断続的な雪が降り続き、
何十年前前の寒い冬が戻ったような気
がします。今年はずき年。私の干支
です。まだまだ、先のように思ってい
た還暦も人生のターニングポイント、
いつの間にか迎える歳となりました。
「還暦祝いには赤いちちゃんこ
を贈る」という古い習慣があります。
古来還暦は、暦の上で生まれた年に一
周して還る＝赤子に還るといふ由来か
ら、「赤子（赤ちゃん）」に掛けて「赤

いちちゃんちやんこ」とされ、贈る風習ができたそうです。心に「赤いちやんちやんこ」を着てみようかな？

私にとって昨年は、仕事に一区切りを付け、第二の人生を歩みだしました。

そんな折、話題になった栃木県在住の柴田トヨさんの詩集「くじけないで」を読んで感動しました。このおばあちやんは、一人暮らしで今年百歳になります。詩を書き始めたのは、九十歳を過ぎてというから驚きです。産経新聞「朝の詩」への投稿がきっかけでした。そのやさしい言葉と前向きな生き方の作品は、とてもさわやかな気分にしてくれます。「人生、いつだってこれから。だれにも朝はかならずやってくる」が柴田さんのモットーです。

人生は、つかの間、過ぎてみれば一瞬の出来事だと言われています。今日のこの時を、これからも大事に「赤ちやん」に戻って、自分磨きに挑戦します。

家の周りや田んぼは一面真っ白。でも春はもうすぐです。太陽の光が雪に反射して、キラキラ眩しい日差しが戻ってくるはず。今からワクワクしてい

ます。どうか皆様にとっても、幸せなうさぎ年になりますよう、心からお祈りいたします。

果報といふこと

下市 渡 和基



除夜の鐘で年も改まり、いよいよ卯年の始まりです。雪景色の元日で、子供の頃の正月の風景と変わリません。年輪を重ね世の中も移ろい、戦後の日本の目覚ましい多分野の発展の中で、六十年間平和を享受し、世界に誇る新幹線は青森から鹿児島まで三月には一本の線であがり、国産ロケットも高い技術を備えて、その成果を日々の報道で知ることが出来ます。日本の歴史の中で比較すると、これ以上ない社会環境だと思われます。

もう十年以上前の事だったと思いますが、田邊孝先生が「何が果報か」と会話の中で問われたことがあります。今感じること、平和な最良の環境の日本で、六十年を過ごすことが出来た

ということですよ。

そういった環境を感謝し、もう少し成長したいと願って。多少の努力はしておりますが「少年老い易く学成り難し」で、人生修行の道中を歩いております。

卯年は飛躍の年

還暦を迎えて

下飯谷 高村 清

まちづくりセンターより「うさぎ年生まれの方へ」のお手紙、何かと思いきや原稿依頼、どうやら私がうさぎ年生まれということに起因したものでいうでした。

私は、昭和26年（5月）生まれ、いわゆる還暦という年齢になります。還暦とは、暦が還るということで、辞書には「甲・乙・丙・丁・戊・己・庚・辛・当・葵」という十干の組み合わせが60通りあり、60年で一巡することとあります。

いわゆる60歳、全くその自覚と申しますか実感がなく、他人事感覚でし



かありません。では何歳と聞かれると「・・・？」で、自己の精神的幼稚さから大人にもなっているのかも応えられず、ただ、体力的には少なくとも20・30代のときより落ちているのは否めません。私の子供のとき、60歳と言え、おじいさんと呼んでも過言ではなかったように覚えます。しかしながら、実際60歳を認識しなくてはならず、追い込まれますのは職場での定年制、否が応でも認めざるを得ない状況の年です。同級生にあつてはすでに定年により職を辞した人もいます。

今年の地区自治会での年始会、還暦という事で一言要請され、そのお話しさせていたただいたことですが、人の体は一二〇年生き得るべきに造られており、今60年、これからあと60年を折り返していくことから、第2の人生として花を開くべき、あらゆることに希望をもち、人生を謳歌したい。との勢いを話させていただきました。

社会的には、暗いニュース、閉塞感のみで先のみえない政治、明るい話題の少ない現在ですので、せめて自己の精神は明るく保ちたく思っています。

うさぎ年は飛躍の年、なんらかの希望をもち、還暦を自負できるよう、これまでの自己を反省し精神的に成長し、社会の一員として飛躍できるようながんばって生きたいとおもいます。諸先輩を師とし、後輩の範となるべき人間に成長したく思います。

せっかくですので、紙面をお借りし、大代町の我が同級生の名前を挙げさせていただきます。町民の皆様であれば名前でも何か思い出していただけないかと思えます。(以下、敬称略。名前、地区に間違いあればご容赦を。)

(川上) 鉦 敏幸、 笠井勝美

角 芳恵、 田中美津子

故・山下秀夫

(椿) 榎原正、花田寛、田辺文子

(柿田) 岡田茂樹、角文雄

(植松) 山口幸雄

(四日市) 中垣美幸、渡辺良子、

榎原弘子

(上市) 後藤恭一、田中出、桐田幸雄

磯田文幸、山口賢二

(下市) 原田道夫、林光徳、佐藤宣子

(下谷) 竹間小春、蔵光由美子

(八反田) 竹間猛、山崎順二

山根美千代

(本郷) 森脇美千代、大葉順子

(山田) 畑 誠、坂本愛子

(飯谷) 田辺源治、高村実、高村清

坂本君枝、山崎哲二

(弓久) 岡田修二

(右原) 山口好夫

あつと言つ間に還暦です

八反田 三宅栄里子



私は今年、年女で還暦です。若い頃おばあちゃん達が言っていた言葉を思い出します。「一年前が昨日のようだ」「80歳まで生きたらえつと生きたと思うかも知れんが、すぐですよ」と、私も今日迄生き延びて、少しづつその言葉の意味が・深さが分かってきた様に思います。

数年前から不況の波に呑み込まれ、社会が混乱する中で卯年の今年は、良い年になると言われていますが、連日恐ろしいニュースを見たり聞いたりすると、あまり呑気な気分にはなれませぬね。戦争や原爆を体験された人達の

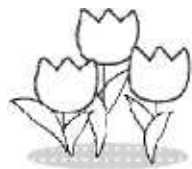
耐え難い辛抱に学び、何が起こつても不思議ではない今の社会を一日一日生きて行きたいと思いません。

自分の出来る事を、又やらせてもらえる事を一生懸命にやるだけですが、出来た事に感謝し、生きている事に感謝しながらこの一年も頑張つて行きたいと思いません。

こんな私ですが、これからどうぞよろしくお願い致します。それでも今年も良い年でありますように。

大代へ嫁いで五十年……

下飯谷 飯田 須美子



うさぎ年が巡ってきました。そして、私が大代へ嫁いで今年で五十年目、月日が経つのは早いものです。この五十年の間には、本当に色々なことがありました。

主人を亡くしてもう四十年が経ちます。当時、二人の息子たちはまだ幼く、小学校へ入学したばかりでしたので、大変寂しい思いをしたと思います。

主人が亡くなってから一ヶ月ほどして、初めての女の子が生まれました。主人がいたらきつと大変喜んでいたと思います。それから、義母と二人で三人の子供を育てるのは、大変なことでありました。仕事をしながら、百姓もしなければなりませんので、本当に苦しい時もありましたが、主人のいない一家を支えるため一生懸命でした。義母がいてくださったので、私も頑張ることができました。お母さんには、本当に感謝しています。

私自身、体の強い方ではなかったのですが、入退院を繰り返しながら働いておりました。そんな時にも、二人の息子たちが家事や百姓の手伝いを懸命にやってくれました。大変嬉しかったです。どこにも連れて行ってやることができず、可愛そうな思いをさせましたが、どうしてやることもできませんでした。

そんな三人の子どもたちも、今では親となり、孫が七人います。お盆やお正月には、みんなで集まりとてもにぎやかです。色々苦勞をかけたことが、子どもたちが立派に成長してくれたことにとっても安心しております。

これまで、大代の皆様には色々とお世話になり、本当にありがとうございます。どうかこれからも親子共々よろしくお願いいたします。

老兎の戯れ言

上飯谷 門脇祥造



ええ そうなんだ。今年は何なんだ。何回目かな？

私が生まれた頃は軍国主義のまっただ中。男子誕生で兵士が出来たと、よろこばれ、先はお国のため死ぬはずでした。何十万の命を奪って敗戦！命拾いました。「良かったのか？悪かったのか？」

食糧難「糠団子や芋粥」橋本の先代のお婆さんが行商で置いて行ってだった鯖うまかったな！ともあれ大人になり、やれやれ。

ばら色の人生が苦勞の連続。落ちたり上がったたり四苦八苦。せっかく生まれたのだから何か世の中の為にと考えるのだけど、老いてしまつて……。でも「年が寄る」と言える事は自分が歩いて来た人生の結論を出すときで、体の

衰えに心を奪われて嘆くのは情けなく、大切なのは「気力」だと思えます。この気力は年とは関係なく気持ち次第。年が寄り、長く生きてきたのだから経験と知恵が体に寄っていて、その上に生きて行く苦勞を充分知っている。

それに生きると言うことの尊さもよく知っており、そのことをこれからの若い人に、しっかり伝えて行くのが老いの仕事だと思えます。

ともあれ、大代で生をうけ、大代の自然に還ると言うことは幸福（しあわせ）なこととこれ以上は贅沢かも！

荒波の断崖に芽生えた老い松。懸命に根を張り、枝を広げ生きて来てやがて枯れて行く。それで良いのだと！

ともあれ兎、跳んで跳ねて「少ししか跳べないけど」皆さんの迷惑にならないよう、少しでも役に立つよう、七回目の兎目指して頑張ります。



違法・有害情報から
子どもを守りましょう

大代駐在所

卯年生まれを

振り返って

右原 渡利忠正



昭和十四年卯年に生まれて六回目の卯年を元気に迎えることができました。

今振り返ってみますと、一回目の昭和二十六年頃は、夏は暑く冬はつららが下がり、今年以上に寒い冬でした。

二回目の昭和三十八年は山陰豪雪で今の様に除雪車もなく右原の道の雪掘りに消防も出るしまつでした。その頃からみるとまだ雪も少なくなっただと思えます。

米作りをしながら会社勤めをし、テイラーからトラクター、田植機、コンバインと機械はどんどん進んで体もお金もついていくのが大変な時代でした。米の値段も一万円以上の時代から、今ではその頃の半分と本当にやりがいのない時代になりました。

今一番の楽しみと言えば休日に孫たちが顔を見せてくれることです。孫たちの顔を見るだけで疲れが取れます。今現在、子牛を飼っています。初産

するのも楽しみの一つです。

これからどんな時代がくるか心配ですが、次の卯年、その次の卯年と元気に迎えたいと思えます。

うさぎ年生まれ

本郷 曾根シゲコ



原稿の依頼で随分悩みました。書く事の苦手な私、書けるだろうか；出来る事ならパスしたかった；。

生まれは邑智郡三原村字田窪。小さな堀立小屋でそれはそれは可愛い女の子と言いたいところですが、なにしろ十人姉兄（男二人）の八番目でめずらしくも何ともありません。しかも七女ときています。九人目もやっぱり女。この妹が生まれた時、私は子供のいなかった叔父叔母の家につれて行かれ、そのまま育てられました。

その育ての母も去年、九十五歳で亡くなりました。元気な時は、よく主人の後を腰を曲げて歩いていましたが、その姿が目には浮かびます。

現在三人の子供も成長し二人です。これからも亭主関白とかかあ天下でお互いに頼りながら、好きなドライブと小旅行を楽しんで暮らしていけたらと思います。

近況報告

下飯谷 有田眞澄



突然まちづくりセンターより「貴女の年、うさぎ年なので何か一言書いて下さい」と言われました。

私は波積より大代町へ来て、水が良かったのか、健康になり人生を過ごして来ました。

今から七年前に母を亡くし、介護もいらなくなつて、「水井出の里加工部」に入りました。今はほうれん草を作ったり、葉ワサビ漬けや週一回の豆腐作りに行っています。

高齢になって人数も少なくなりましたが「みんなとのふれあい」を大切にしています。

三月からは、直売所「よっちゃん菜」にも美味しい豆腐を出しますので大代町の皆さん食べてみて下さい。

大好きな大代

柿田 藤井房子



ピョンピョンピョン。七回目の兔年を迎えました。八月三日に八十四歳になります。女性の平均年齢には少し足りておりません。

私は、韓国で生を受け、実母とは一年と五十日目に見別れました。母の実家の養女となりましたが、それを感じた事もなく成人させてもらいました。母が佛の国から私を見守っていてくれると、事ある毎に感じ、感謝しています。

養父母は、実子に恵まれず、急な養育の苦労は、如何ばかりだったろうと察します。昭和四十二年一月十三日すべての物が凍りつくような日に、養母は佛の国へと旅立ちました。四人の家族に見守られながら・・・。

私は養父母の下で、多くの人にお世話をかけ藤井家に五十年ぶりに男子誕生を果し、一族から慶んでもらいまし

た。今では十一人の家族に囲まれていることに感謝しています。

まちづくりセンターから原稿依頼があつて存在を考える機会が与えられたことに大きな刺激を感じました。

いつお迎えが来てもよいと思つたり曾孫誕生に会い、この子が成人するまでは生きたいと、夢を追うことにも感じが生れました。

現在、自分が少しでも世に役立つことがあるのかなと素直に思つたりしています。

健康に最善を尽くし、人様と明るく交わつて、日々楽しくすごさせていただく所存しております。身勝手なことまで書きましたが今後もよろしくお願いいたします。

七回目のうさぎ年に想うこと

上市 山根美佐子



ピョンピョン跳ねて飛躍の年にと云いたい所ですが、体の動きが悪いと何事も（一）思考、すっかり横着者にな

りました。

106才で亡くなられた後藤のおばさまの齢にはまだ22年。49才の働き盛りで亡くなられた和田さんの事を思えば35年も長生きさせて貰い、社会へのお返しもせず、皆様のお陰で日々過ごさせて戴き有難く感謝しています。

年末から年始の大雪には参りました。雪道を開けて下さる方があり、買物はないかと気遣って下さる友があり、皆様のご厚意に甘えて、春を待ちつつ、冬ごもりです。

この寒さ救急車の出番多く、万一時、唯一頼みの市立病院の救急体制早く元に戻る事願っています。リスクを避けて儲かる開業医は増えているのにも思いますが。早い内に身の処し方を考えなくてはと思う気持ちと一日でも長く大家の地で住みたい。身勝手な思いが交錯しています。

無縁社会、孤獨死等、昨今云われていますが、大家に居る限り、日々の出来事がすぐに伝わり、暖かい思いやりが届いて来ます。大家はやっぱいい所です。次のうさぎ年迄とても生きられそうにありません。寄稿の機会を与

えて戴き有難うございました。支えて下さる多くの方々にご心よりお礼申し上げます。

卯年を迎えて

四日市 荒本貴和子



七回目のうさぎ年を迎えました。

七月末で八十四才になります。八十才になった時は、さほど感じませんでした。最近では手早く出来た事にも時間がかかるようになりました。でも今日まで元気に生かされてきた事に感謝致しています。

月一回（一月二月は休止）の「さくらんぼ教室」に社協委員として私なりに楽しくお手伝いをさせてもらっています。

二十余年前から「西臨寺仏教子ども会」を月一回土曜日に開いています。発会した頃は二十数名いましたが、今では八名です。

昼食に私の作る「かしわごはん」をとても楽しみにして来てくれます。私

も心に張りがでてきます。つけものとお茶のみですが、合掌して大きな声で、食前、食後のことばを唱えて目を輝かせて箸を動かす姿を見ると、私の孫か曾孫のようでも可愛いです。私も元気を出し身体の続く限り、精を出したいと思っています。

あれからすでに二十余年、もうお父さん、お母さんになった人も大勢います。私も年を重ねたものだなあとつくづく思っています。命の続く限り現役の坊主として、寺のお世話をさせていただきます。ただきたいと思っています。

つながりを求めて

植松 後藤さつき



兎年生まれの私に、年女として原稿依頼が舞込んで来ました。まちセンの人選ミス？と、おばあさん兎は苦笑しています。未来への展望、将来への希望は、もう考えたくても考えられなくなりしました。若いお方にお願ひしましょう。

孤独死が年間三万人、親の年金詐取、児童虐待等々、暗い世相の中、先日N

HKテレビが、「迷惑、空き家が都会で急増！消えた家主を追い」ナンデ？

内容は成長して家を出た息子の住所を親は知らず、親も何処へ行ったのか、隣家も友達も分からない。つながりのありそうな人を次々に追跡するが、誰も知らない、残ったのは荒家だけ。

親も、子も、世間も、縦も横もつながりが失われた世の中、これを無縁社会と云うのだそうです。

大代でも街並は空き家か、独居老人が多く、年末年始にかけて惜しまれて亡くなられた方々、救急車の出勤も度々ありました。幸いにみんなが顔見知り、それなりのつながりもあります。

この大雪の中、一軒家の人はどうして居られるのか、大方は何日も人の顔を見ない、話もしない、と云う日があります。そう、そういう私も手いっぱい、副作用に悩む、不安いっぱい、の生活をしています。

なるべく人様にご迷惑をかけない様にと、思っています。なにかにつけてお世話になる事ばかり、近所の方が「転ぶな、転ぶな、風邪を引くな」と声をかけて下さいます。嬉しいですネ。あ

りがとう。

私も家に引き籠らず、此方から声をかける様に心掛けたいと思います。電話でもいいから「元気でいますヨ」と、よろしくお願い致します。

初めての男の料理教室

下市 森

守



一月三十日、久し振りになまり空は上り美しい青空を見上げて、心さわやかに楽しみにしていた男の料理教室の初参加です。

胸を張らずに静かに調理場へ、おそるおそる足を踏み入れる。やはり男の居心地はすつきりしない場所。

何から手を付ければいいのか余り自己流に動いてもいけないし、やさしい指導にて、



本日のメニュー『お好み焼』の材料作り、それぞれに取りかかり、身にしみる水作業、もどかしい包丁の動き、巾がそろわないキャベツ切り、笑い声の

中で材料作りも無事に終り、毎朝見ている連続テレビ「てっぺん」のお好み焼きのように焼いていくと、肉、イカ、エビの美味しそうなにおいに思わず腹が鳴った。一杯飲んで食べたいが、でも車なので「ダメダメ」と、いやしい心をおさえた。本日の材料の事、料理方法などみんなまで対話をしながら美味しくいただいた。

楽しく初めての料理教室を無事終えて、女の人の一生の日々が今さらながら我が身にしてみた一日となり、今日より女の人に足を向けて寝られないと強く感じる一日となった。

売れる米づくりを基本に

良質米の生産拡大を

大田市農業委員 横手新治郎



年末からの寒波襲来での大雪が、やっと消えかけたと思ったら、また急激な寒波が日本中を襲い、各地に大きな被害をもたらしました。38豪雪以来とも言われ、今年の気象が心配されるどころです。

昨年の米作は、高温障害が各地で多発し、2年連続で平年作を下回り、品質も白未熟粒が目立ち規格外米が多く発生しました。米の消費も減少し、在庫が多量に発生したため、コメ市場価格がかつて経験したことのないほど値下がりをし、生産者からの買い上げ価格が大幅に下がりました。このため、新政府が22年産米からモデル事業として始めた「戸別所得補償交付金」を受けても、昨年までの米価が補償されない状態となりました。

このような名情勢の中で、今年の米の生産目標数量が配分されましたのでその概要をお知らせしたいと思います。今年の生産目標数量は、県内では、多くの市町村で配分が減少している中で、大田市は約8町歩多く配分されましたので、水稻作付面積の拡大による水田の活用が必要となりました。今月末までに各農家の希望を取りまとめ、その結果により、各農家の作付面積が決定されます。しかしながら、米あまり現象は、当分続くと予測されますので、価格の上昇は期待できないため、他の作物への転換が可能な水田には、

飼料用米、大豆、エゴマ、そば、なたねなどの栽培が推奨されます。農林水産省では、これらの作物に対しては、23年産から本格的な戸別補償制度が確立され、販売価格が生産費を恒常的に下回っている作物を対象として、その差額が交付される仕組が決定されました。反収や品質向上の努力が反映されるよう「数量払」を基本として、営農が継続されるよう必要最低限の額が「面積払」で交付されます。十分な補償ではありませんが、各作物のコストの低減を図れば有利になるものと思われれます。

また、高齢化や後継者不在により耕作が出来なくなった農家の相談を受け、借手を探す事業が、JA石見銀山に設置され、専任職員が配置されましたので、早めに相談されることをお勧めします。

地球温暖化に伴い、昨年の夏のような異常高温だけでなく、集中豪雨や干ばつなど極端な気象の増加が心配される中ですが、生産コストの引き下げと、良質米の生産を続けていけば、貿易自由化となっても、日本の米の信頼は高

まり、試験的にロシア、台湾、韓国に輸出されている石見地方の米にも、期待が高まってほしいものです。

3月行事予定

- * * * * *
- * * * * *
- * * * * *
- ▼ 3日(木) ひな祭り展示
- 午前9時30分～午後3時まで
- まちづくりセンターにて開催!
- 皆様のご来場をお待ちしています。
- ▼ 6日(日) 婦人会総会
- ▼ 6日(日) 「よっちゃん菜」初売り
- ▼ 13日(日) 福祉弁当
- ▼ 13日(日) 「よっちゃん菜」イベント
- ▼ 15日(火) さくらんぼ教室
- ▼ 15日(火) 第三中学校卒業式
- ▼ 18日(金) 幼卒園式・小学校卒業式
- ▼ 20日(日) アンテナショップ(大森)
- ▼ 23日(水) 連合自治会

お知らせ

大代地区社協より

上市 太田秀美様から

香典返しにかえ金一封の御厚志を頂きました。厚くお礼申し上げます。

